

広報委員会

委員選出の時、最後まで決まらない広報委員会。今年度もそんな中で、ことわりきれない、やさしい方々（動きだすと意欲的）が8名・合計24名と顧問の村田先生とで広報誌「鎌高」の編集に携わっています。

今年は、親は子どもの学年とは関係なく、自由に意見をだしあい人と人とのふれあいを大事にお互いに何でも話し合い、日常的な感覚に麻痺しないように、楽しい雰囲気大切にしながら、企画、編集にとり組み、日頃学校の皆さまに、折々の鎌高の断面をお伝えし、一緒に考えたり、反省したりしていき、親しみやすく、読みやすい広報誌をと思っています。

広報誌の創刊号は、昭和46年7月20日

この10年間、連載記事としては、

- ・印象に残った生徒
- ・研究室訪問
- ・クラブ訪問（部活訪問）
- ・先生に touch

特集としては、

- ・海外体験を語る
- ・素顔の鎌高生
- ・参こう会
- ・鎌高生の本音
- ・親の本音 etc.

発行は、年2回の時、年3回の時がありました。

今年70周年は、68号・69号を発行する予定です。



学年学級委員会

かつては、講演会や、教養講座が開催されたり、学年だよりが発行されたこともある。鎌高の学年学級委員会も、時代と共に、少しずつ変わってきました。

ここ数年の2つの事業を紹介すると、ひとつは、伝統ある、合唱コンクールへの参加です。4年前より、会員有志で結成するコーラス（総勢60名）が、審査の時間に出場させてもらっています。鎌倉芸術館で、正しく花(?)をそえている訳です。

もうひとつは、学習会の実施です。昨今の、子供達を取り巻く社会環境が、著しく変化しているにも係らず、家庭も学校も、十分な理解や、対応ができていないことを憂慮し、企画しました。

第1回目の一昨年は、「社会の激変の中で、親が子供にできること」というテーマで、進路を考える上で重要な、社会の変化（企業が変わり、就職試験が変われば、大学も変わってくる）について考えてきました。

第2回目の昨年は、「悩める高校生」というテーマで、親として最も心配な、心の問題に取り組んでみました。保健室を訪ね、養護の先生から、鎌高生の変遷を伺い、又、スクールカウンセラーの先生を招いて、受験の前に、精神が、身体に及ぼす、様々な影響について教わる事ができました。これからも、家庭と学校のパイプ役という重要な役割があることを自負して、積極的に問題提起し、活動してゆきたいと思います。

